

幹本申第4号「盛岡新幹線車両センター業務の一部委託について」団体交渉を行う!! ④

7. JR 本体に車軸探傷の技術・技能を残していくための教育体制を具体的に確立すること 会社回答「引き続き必要な教育は行っていく考えである」

組合	交検の車軸探傷は委託となるが、臨時作業で JR 本体でも車軸探傷を行う場合がある。今後、どのように教育をしていく考えか。
会社	現時点では車軸探傷作業が出来る社員は多くいると認識している。どのように教育を行っていくかは検討中。新規と維持をしていく教育でやり方は違ってくると考えている。
組合	机上教育やモデル軸探傷だけでなく、是非現車を使用しての教育も行ってもらいたい。
会社	教育のやり方は検討していくが、スキル管理していくことは必要。教育については会社として責任を持って示していく。

JR 本体でも技術・技能を維持していくことを確認!

8. 作業環境の観点から、検修庫全面フラット化を行うこと

会社回答「作業環境の整備は状況等を勘案し、適切に対応していく考えである」

組合	検修 1 番線山側の床面フラット化はこれまでも要求してきた。床面の段差により、車軸探傷機が傾き、車軸へのセットに苦慮したり、機械を車両にぶつけてしまう恐れがある。また、段差を避けようとして、別の設備に機械をぶつけた事例もある。
会社	操業中に修繕を行うことは難しい。全面的な修繕は難しいが、可能な限り、箇所でも修繕対応して欲しい。
組合	現場でも山側床面に限らず、コンクリートが破損している箇所は自分たちで修繕しているが、車セの社員が修繕するには限界がある。設備系統とも連携して修繕して欲しい。
会社	職場から不具合箇所を挙げてもらえれば検討していく。

職場の声をもとに作業環境改善を行っていくことを確認!

9. 施策実施後の検証を行い、必要な対策を講じること

会社回答「引き続き状況に応じ適切に対応していく考えである」

組合	委託後の検証については前広にトレースを行い、より良い体制を目指して欲しい。具体的にどのように検証を行っていくのか
会社	アプローチとしては決めていない。その時の施策によって検証のやり方は違ってくるが、箇所でやり方を決めて意見集約していく。
組合	箇所でやり方を決めるということなので、我々としてもどのようなやり方が良いのか提案していく。

施策実施後の検証を行い、より良い体制にしていくことを確認!

**新幹線協議会は安全・技術継承を第一に
施策に向き合っていきます!!**